

産建教育常任委員会 議事録

日時：令和7年1月15日（水）

午前9時30分～10時40分

場所：第1・2委員会室

出席者

委員名 ☒委員長 大和 晴美 ☒副委員長 丸子 直樹 ☒委員 竹内 和彦
☒委員 高橋 真理子 ☒委員 伊藤 貞悦

【遅刻・欠席委員なし】

会議次第

1 開会宣告 【委員長】

2 連絡

1月17日（金）午前11時00分 全員協議会（議案配付）
20日（月）午前 9時30分 広報・広聴常任委員会
23日（木）午前10時00分 第1回山元町議会臨時会
〃 臨時会終了後 全員協議会
24日（金）午前 9時30分 広報・広聴常任委員会
25日（土）午後 2時00分 議会報告会会場準備
（山下・坂元会場）
26日（日）（時間後日） 議会報告会（山下・坂元会場）
28日（火）午前10時00分 総務民生常任委員会
30日（木）午後 1時15分 仙南・亙理地方町議会議員研修
（蔵王町ございんホール）

3 事件

（1）排水対策について【建設課】

〔説明員：山本課長、菅野施設整備班長〕

○資料に基づき説明を受けた。

委員長：ただいまの説明について質疑はあるか。

副委員長：坂元川について、対策案3でフラップゲートが閉まった際に坂元川へ流すということだが、坂元川へはいくら流してもいいのか。別の場所に出せる限界があるという話だったが、他の場所から好きなだけ坂元川に流していいという形になるか。

課長：常時としてではなく、大雨が降り内水が冠水してくるような緊急時であれば、

応急的に排水しても良いことになっている。

副委員長：そういった場合のみ、例えばポンプ車を10台並べ、全部入れても問題ないという形で考えて良いか。

課長：極端な例ではあるが、堤防の高さを見ながら排水をしないと下流側にオーバーしてしまう。

副委員長：横山地区は、サイフォンの流量を増やすことが主な対策になっているが、サイフォンを変えるのは簡単なことなのか。単純にお金がすごくかかるのか、かからないのか次第でやり方が変わってくると思う。また、サイフォンまでの用水路で、キャパを超えて溢れるようなことは考えているのか。

課長：令和元年の台風19号であれば、亘理用水路がオーバーフローすることはないという状況。下のサイフォンで東側の田んぼへ行くという形になる。下流側の落とし堀承水路の水位が上がってくると、落とし堀承水路と亘理用水路の間の田んぼが冠水してくる。

伊藤委員：坂元地区の課題の整理において、坂元地区で発生した雨水はすべて坂元川へ排水出来ないとある。この課題を解決しないと、対策にならないと思う。もう一本直接太平洋に流す排水対策を考えなくてはいけない。それを行いながら、田んぼのダムを坂元小学校の東側あたりに一つ作り、一気に増水することを一時的に止め、少しずつ流す。坂元川にしろ谷地川にしろ、上から下にしか流れない。溢れて溜まってきた水はいくら汲んでも汲み切れないので、流すしかない。高低差を利用し、上から下にしか流せない。南北に流しても水が溜まるだけで、一番の解決策にはならないと思う。町だけではなかなか厳しいと思うので、いろいろなことを考えて、国などに対策を講じてもらえるような工夫が必要。時間やお金がかかるが、排水対策としてその項目を入れておかないと、町でやれ県でやれと言ってもなかなか抜本的な解決にはならないと思うので、対策案の中に入れると良い。早急にやることが出来ないのであれば、部分的に貯水池や田んぼダムを何か所か作り緩和して流すなど、坂元ではそのようなステップを踏んでやらなくてはならないと感じた。

課長：新たな排水路を太平洋にという工夫は、対策案のその他の中に一つ入れておいたほうが良いと思うので、今後も要望を続けていく。

伊藤委員：横山地区において、旧市街地、旧横山町と道路との高低差がない。道路のほうが高く、宅地が低くて流れてきたり、各民家ごとに側溝が掘ってあるが幅が狭かったり、それを流す集合したところが小さくなっている。人口と面積に比べて、ダメージが全然違う。そういったことを考えたときに、サイフォンも、昔だからしょうがないと思うが、用水路の下をくぐって排水している。費用も設計図も非常に無理がかかってきていると同時に、旧住居と水路の間の土地が低いので、構造上水が溜まってしまう。それを無理やり流しているような段階なので、サイフォンと同時に大きな用水池をどこかに作って、強制的に下に流す工夫をしなくてはならない。同時に、道路と河川の改修もしないといけない。六角川という川があり、なぜ六角というかという、角が6つあって6回ぶつかっているからであるが、ぶつかるとう必ず一周してしまう。その川を改修して

広げるなどの抜本的な改修したり、旧道のかさ上げをして面積を大きくしないと、流量に対し流木があってごみがどうしても詰まってしまうということがある。上と下を比べると、わりと下のほうはゆとりがありそうだが、ごみが詰まったり角にぶつかったり、いろいろな障害物があって苦しくなっている状況があるので、もう少し考えられないか。横山の場合は、どこかで強制的に下に排水するということと、町東の部分に貯水池、いわゆるダムみたいなものを作り、一時的に集めて排水するような工夫をしないと難しい。横山には大平字横山と八手庭字横山があって、本当の横山は小さい。大平川と八手庭川など何本も縦に流れる川を全部整備していかないと対策を取れないと、ある古くから住んでいる人に言われたことがある。小さな川は山下第一小学校の前にもあり、南に行くと東西側にもある。北側にも細い川が結構あるので、丁寧に一つずつやっていかないと対策は難しい。サイフォンを0から8台まで作ったというというのは、そういうことなのかと今さらながら気づかされた。対策としては、そういったことを抜本的に考えてやっていただきたい。今回出された整理と対策について、地域住民、地元住民にこのような対策を取っていきたいと出来るだけ早い時期に話をする計画や予定はあるのか。

課 長：横山の老人憩いの家がこの辺りで一番低い。この道路自体が昔の道路で、側溝がほぼ平坦面になっている。対策案3にあるように、道路改修と合わせて側溝の改修をし、水が滞留しないように整備を行う。同時に、対策案1でサイフォンが2つくっついている部分を大きくし、東側の田んぼのほうに流す。亘理用水路から落とし堀承水路までの間については、震災後北部整備事業で農地整備を行い、コンクリートの側溝に変えている。流下能力はだいぶ大きくなっているが、落とし堀承水路の水位が上がるとどうしてもということなので、これについては今後の話し合いになるが、大雨時には仮設ポンプを設置し、落とし堀承水路に流す。落とし堀承水路の水は、牛橋の排水機場を動かし極力水位を下げることで、老人憩いの家周辺の冠水はいくらか軽減されるのではないか。大平側の旧県道を横断しているボックスのほうが狭いので、横断ボックスの大きさを変える。流出量はまだ余裕があるので、落とし堀承水路まで流れていくようになる。落とし堀承水路が上がると、どうしても溜まってしまうので、土地改良区と連携しながらやっていきたい。

伊藤委員：地域住民への説明は。

課 長：来年度予算要求をさせていただいているので、その時に住民説明会をしたいと思っている。坂元地区の対策案3についても、来年度当初予算に側溝の整備費用を入れるので、これからの方針について町・下郷地区の方へ説明会を行う。

竹内委員：対策案説明位置図について、4番作道、いわゆる第三線堤が加味されていないが、この影響は結構あると思う。谷地川は海につながっていないので、ポンプで排水している。ポンプの手前に第三線堤が3メートルの高さで入っている。ポンプに流れる水がかなり制限され、そのあたりを加味した対策を考えないといけないと思うが、どのように考えているか。

課 長：検討の中では、第三線堤をかさ上げしたことにより、下郷地区への影響は台風

19号ではない。図面一番右側の緑色で着色した部分、遊水池の検討と書かれているところの真ん中あたりにちょうど三線堤があるが、この部分での遊水池検討が将来的に必要である。

竹内委員：台風19号には影響がなかったのか。

課長：台風19号ではバックはしてこない。下が溜まるよりも上で溢れるほうが多いという検討結果になっている。

竹内委員：溢れたものも結局は谷地ポンプで排水する。ポンプの手前に3メートルのかさ上げの堤防があったら……

課長：ポンプで汲むことによって、堤防があったとしても止まっているわけではないので流れる。上まではバックしてこない。

竹内委員：これまでは、排水が追いつかない。坂元地区の道路は越水して30cmくらい冠水しているが、流水と排水で排水が追いつかない。道路冠水してしまうという状況。

課長：田んぼは冠水してしまうが、高さの関係で町・下郷地区までは変わらない。下流側の田んぼは冠水する深さが上がっていったとしても、ポンプ場が動いている限り、最大値1時間33mm程度であれば町までバックする量ではない。

竹内委員：これまでも大雨が何回かあったが、谷地ポンプが止まったことはあるのか。

課長：止まったというより、水位が上がってきて作業している人員の危険になるため避難して止めたということがある。

竹内委員：ポンプが要であるので、止まると大変なことになる。ごみが詰まって動かなくなったことはあるのか。

課長：前にはあったが、ごみの機械を新しくしているので、台風19号の際には止まっていない。

竹内委員：流水と排水のバランスがあるので、解決策の一つには排水能力を上げる必要がある。

課長：排水能力を上げるということも一つある。谷地排水場に関してはエンジンポンプと電気ポンプの2種類がある。同時に動かしたことはなく、どちらかでやっているようなので、同時に動かすためにはプール自体を大きくしないといけない。その一帯が冠水すれば同時に動かせば良いが、同時運転するためにはどのくらいの容量が必要か、今後土地改良区と話し合わなければならない。

竹内委員：同時運転とは、ポンプとあとは何か。

課長：エンジンポンプと電気ポンプがあり、通常は東北電力からの電源を使って動かしている。非常用にもう一つエンジンポンプがあり、そちらを同時に動かす。土地改良区との話の中で、ポンプで汲むためのプールが小さく、両方を一緒に動かすことが出来ないと聞いたことがある。

竹内委員：以前プールを大きくする工事を行ったのでは。

課長：東部地区整備事業の中で一部は行ったが、両方汲むくらいの大きさにはなっていない。

伊藤委員：プールが電気とエンジンの両方を一気に動かして排水出来る大きさではないということか。

課 長：当時、プールの大きさを検討する段階では、両方ということはやっていない。

伊藤委員：片方が壊れても、予備として2つ作ってあって、それほど多い量の水が溜まることは予想をしないで計画したのか。

課 長：その段階では、使えるお金に見合った分しかやっていない。

高橋委員：何年前か。震災の後か。

課 長：震災後なので、平成28年か29年くらい。現地にあるプールは一反分か一反分半くらいの大きさだと思う。

高橋委員：それは公費で出来たのか。

課 長：県事業でやっていたようだ。

高橋委員：特にここ4、5年は想定外の雨が降るようになってしまった。想定外ということは、どんなに対策しても想定外のことになってしまうということは、どこの自治体でもあることだと思う。課題の整理が出来て対策ということになり、これを来年度の予算で執行されて対策に沿って工事するということになるか。

課 長：対策案1の部分が来年度で予算を取って行う。対策案3については仮設ポンプなので状況を見て行うが、対策案2については、地権者の方に農業部門との連携を取って協力していただき、田んぼに排水枡をすべてにつけて、水路に行く量を調節するという。地権者、耕作者の方達とみんなで住んでいる地区を守るということでタイアップしてやっていかないといけない。側溝整備や、横山で言えばサイフォンの設計という部分については来年度当初予算で要求させていただいてやっていきたい。

高橋委員：そのように予算を取ってやることと、協力してやることの二つと考えて良いのか。協力してやることの中に入るのが、田んぼダムを考えているということであるか。2年ほど前、田んぼダムのことを一般質問で行った。その際に調べたが、新潟県から始まっていて、新潟県に直接伺ったところ、それほどの費用ではないと。普段は開けておいて、大雨が降ったときに堰を止めることで、一つの貯水池になるという考え方だと認識した。それに相当の効果があるということも聞いている。2年ほど前、大崎地方でも大々的にやりだして、効果があったと思われる。今や、農水課に行くと田んぼダムについてちゃんとした宣伝しているものがある。いよいよこういうふうになったと思っているが、一般質問の後に確認したことがあり、これはちょっと無理ではないかと気になっていることがあった。それは、水が流れるところがコンクリートになっていないといけないということであるが、山元町はコンクリートではなく土である。コンクリートになっていないことは、田んぼダムとしてどうなのかなと思うが、それについて調べたことはあるか。

課 長：田んぼの畦は、山元町でも新潟県でも全部土である。圃場整備が入っていない田んぼでは、排水路が土になっている。坂元地区は、渋沢ため池の特定圃場整備を平成16年頃に行ったので、コンクリートになっている。下郷西側の西田地区は、だいぶ前に圃場整備を行ったので土側溝になっているが、土側溝がだめだというわけではない。枡がピンキリで高くても1個10万円くらい。

高橋委員：そういったことも全部調べた上で田んぼダムということを出してきたのだと思

った。広さを見ると、坂元地区では赤い点線で囲われた部分が田んぼダムの面積になる。協力を得てそうした場合、相当の効果があるのではないか。そこを大いに認知していただいて、協力する体制を取ることが大事。収穫量に関係するかどうかも聞いたが、関係ないという答えをいただいた。季節にもよるだろうが、やっと稲穂がなって頭が垂れるときに水を溢れさせ田んぼをダムにして、本当に収穫量に影響がないのかと思ってしまうが、生産者は絶対考えることだと思う。春夏秋冬いつ災害が起きるか分からない。事業費も他のことに比べればかからない。小さなことから積み重ねて対策につなげることににおいては、もう少し詳しく調べて説明し、納得いただいて実施してもらうことが一番だと思う。

課 長：田んぼダムについては、穂が水に浸かると悪くなるので、水の高さを30cm以上にはしないことになっている。その前であれば、24時間冠水しても生育にはさほど影響しない。ダムにしても生産量は変わらないというデータを先行している地区からもらい説明をして、耕作者や地権者の方に納得してもらえよう努めていかななくてはならない。

伊藤委員：土地改良区の業務分担には、災害時の対策も含まれているのか。例えば、大雨が降った時にゲートを閉めるのは土地改良区か。

課 長：土地改良区の管轄区域であればそちらで行うが、基本的に用水路のほうのみになるので、開け閉めはしない。

伊藤委員：災害の大雨の予報の際は、すべて町でやるのか。

課 長：各地区の用水組合が坂元のほうにあるようなので、誰かに頼んでやっている。

副委員長：排水対策のその他に、日幸電機付近水路を拡幅し、区域外から溢水した水の流入を防止するとあるが、拡幅した場合、排水ポンプ車が来ているところに水を流すようになるのか。

菅野班長：水の流れとして、排水路についてはそのまま下側の坂元のほうに流れるようになっている。

副委員長：ポンプ車が稼働できる容量限界まで行けるのであればとても効果があるが、拡幅は都市計画のほうで出来る案件なのか。

菅野班長：都市計画・住宅班の立地適正化計画の中で、エリアの決め方によって今回まとめた施設整備部分の説明がつけば、その事業費についても対象となる。今後のエリアの決め方、考えている施設整備の方針や方向性も合わせて調整したいと考えている。

高橋委員：今回整理した対策は、台風19号を基本としているのか。これを上回る降水量が無いことを祈るが、他地域での時間降雨量はかなり違ってくるのでは。

菅野班長：ここ10年くらいで最も雨が降ったのが台風19号であったので試算している。他の地域はどうなのかということについて、能登地方で9月に雨が降ったが、輪島市では時間雨量400mmを超えていて3倍であった。総雨量はそうでもなかったが、時間的な強雨・豪雨で、局所的に雨が降る量は2倍も3倍も降っているところがある。幸い山元町ではそういったところはまだない状況なので、ここ10年で1番降ったところで試算していることをご理解いただきたい。

竹内委員：田んぼダムと言っても30cmの高さなので、深いのであれば…

伊藤委員：周りの排水路の水がいっぱいになれば30cmよりどんどん高くなってくる。

高橋委員：そのあたりは調整するのではないか。

副委員長：時差を作ることが出来るので、田んぼに溜まるまでの時間が掛かってくる。これだけの遊水池が上に出来て許容量があれば、時間が稼げるのでは。

委員長：以上で質疑を終了する。

[午前10時30分 建設課 退席]

4 その他

○視察研修については、田んぼダムは現在稼働していないこと、スケジュール調整が難しいことなどから、実施しないことに決定。

委員長：田んぼダムの話が出たが、視察についてはどうするか。

菊池班長：色々と調べていたが、時期的に今行っても田んぼダムとして活用されている機能を見ることは難しいだろうと考えている。

伊藤委員：坂元は坂元川に水を汲まないと排水出来ない。それか、今の現状ではどこかに溜めておくしかない。大きな川の周辺は堤防が高く、それより低いところは水を汲みながら排水している例がたくさんあると思うが、そういったところを見るという方法もあるのでは。全部が土地のかさ上げではないと思う。視察しないということであれば、それでも良いと思うが。

竹内委員：この時期になると、なかなか難しいと思う。

高橋委員：視察しなくても良い。

伊藤委員：11月に消防で酒田に行ってきたが、やはり洪水の被害はすごい。最上川に汲んだりしているが、それどころでなかった。聞いたり見たりすることは大事であるが、状況が状況である。

高橋委員：特に執行部が見るべきである。我々ももちろん大事であるが、結局は見ただけで終わってしまう。行っているのだろうが、現地を見ているのだろうか。

伊藤委員：酒田には山元町長、亘理町長、岩沼市長も行っていた。

高橋委員：執行部の課長や班長は。今まで行ける状況があったのだろうか。

委員長：産建教育常任委員会で行ったのではないか。

菊池班長：去年産建教育常任委員会を担当していたときは、農水課長と一緒に就農について行った。執行部としては旅費を取っているが、都合の問題になってくるので、我々が行く日程と執行部が行ける日がマッチングすれば一緒に行くことは可能。

高橋委員：マッチング出来れば、課長や班長が見るべきだと思う。

伊藤委員：そういった機会を作るのも我々の仕事である。

菊池班長：課長と班長の二人を連れて行くことは出来ないのでは、どちらかになると思う。

高橋委員：どちらかであれば、出来れば班長だと思う。

菊池班長：もし執行部を連れて行くのであれば、今の時期ではないかもしれない。4月に人が変わる可能性もあるので、それ以降でもう一度案件で上げて行くということはあると思う。

副委員長：田んぼダムについて、ここで提案されているのは排水部分の変更という形だけだと思う。他の場所でやっている田んぼダムがそれ以外の様式であれば、そういったところを参考にするのは良いと思う。田んぼダムと言っても一概に作りが一緒であるか把握していないが、排水部分をしっかり止められるようにするという形だと思うので、それ以外の手段で田んぼダムとして使われているものがあれば検討に値すると思う。田んぼダムと一口に言っても、どんな手法でやっているのかが分からない。

高橋委員：インターネットに詳しく書いてあるので、見てみると良い。インターネットだけでなく自治体にも確認しているが、2年前なので状況が変わっているかもしれない。治水対策や排水対策は、いくらでもあると思う。酒田で災害があったところを見てきたとのことだが、それほど遠くに行かなくても、丸森町でも見られるのでは。能登は地震よりも豪雨の被害が多く、時間雨量が3倍とのことで大変だったと思う。

○次回調査項目（再編小学校）について、前回の全員協議会で説明を受けた部分で、なお各委員から確認したい点について事前に通知し、次回委員会で回答をもらうこととした。

委員長：調査事項については、他に再編小学校があるが。

伊藤委員：再編小学校については、全員協議会もあったので、ある程度進展を見ないといけない。

高橋委員：校地は決まったと思って良いのか。

伊藤委員：予定候補地は決まったようだ。

高橋委員：話を聞いて、候補地というよりは、もう決まったようなものだったと思った。3万平米とのことで、買い取ったりもしないといけないが、どこまでを校地として考えているのだろうか。

伊藤委員：それはまだ明かせないのでは。消防署は亘理消防署と山元分署が一緒になり、あの場所を取り壊す予定なので、跡地を活用出来るのでは。周辺に民家が5件あるが。

委員長：再編小学校については、教育総務課にいつ頃委員会を開催するようにするか。

伊藤委員：向こうの都合があるが、次のステップはどこであるか。

副委員長：以前、色々なことが出てくるのが2月くらいになると言っていた。2月上旬が良いのか下旬が良いのかは何とも言えないが、今月よりは2月のほうが良いのでは。

委員長：先日の話では、発注方式などを検討しているとのことだったが、決まっているのだろうか。

伊藤委員：ある程度方向性は決まったのでは。その説明を受ける。

副委員長：前回の全員協議会で山元中学校を活かし改修するという話になっていたが、その前提での話は今のところ聞いていないので、その話をしていただけたらと思うが。山元学校の改修が前提になっていたが、それまではその形まで一切出してこなかったのでは。本当にそれで確定しているのかは分からない。

伊藤委員：それを言えば、一元化だって、町長が一元化にすると行って確定している。全員協議会で町長はじめ執行部が言っているのも、ある程度本筋として捉えて、前に進めないといけない。

高橋委員：言い方が慎重なのだと思う。国にしても県にしても町にしても、逃げ道を作ったような言い方をするので、もう決まったのだと思っている。

伊藤委員：それぞれの思いはあるだろうが。我々として考えなくてはならないのは、廃校になる学校の運営方針などを早くやるようにだとか、どういう風に考えているのか具体的な話をしていけないといけない。

高橋委員：先日の話では並行して考えていくとのことだった。3つを並行していくことは大変だと思った。言った以上はやっていただきたいところであるが、そういった方向性であることは分かった。

伊藤委員：例えば、具体的に校舎を何階建てにするのか、中学校と連絡通路を作るのかなどそういったことはまだ基本構想の中に入っていないので、聞いてもだめだと思う。別の観点から、再編小学校に関する付随して出てくる問題であれば扱えるが、これに関連するようなことは難しいと思う。

副委員長：参考までに、いつ頃消防署はあの場所からなくなるのか。

伊藤委員：30日に臨時議会があり、そこで用地の構想や負担割合まで出てくる。現在決まっているのは、亘理消防署と山元分署を一つにし、中間地周辺に土地を求めて建てたいということまでは決まっている。

高橋委員：亘理消防署を建て替えるのではないのか。

伊藤委員：あの場所では狭い。

高橋委員：もう少し山元町寄りになる可能性があるということか。

伊藤委員：具体的には亘理ニュータウン周辺であれば、荒浜、山下、岩沼にもそれほど遠くないとのことである。

事務局：内容をもう少し固めないといけない。全員協議会での説明を受けての話なのか、それとも別な話で再編小学校という風に持って行かないと、教育総務課は資料を作る分も付随してくるので、どちらの観点で行くのか。前回の全員協議会で受けた説明で、個別に疑問を持った点をもう一度委員会で確認する再編小学校にするのか。廃校など今出てきている問題点に関しての再編小学校をやるのかを決めないといけない。

高橋委員：山元中学校、坂元小学校があるが、その校地だけでなくプラスアルファになるかという考えがあるのかどうか。

事務局：前回の全員協議会を受けての疑問であるか。こちらで今回産建教育常任委員会では再編小学校の協議事項としてやるのか、それとも問題点をやるのか。

高橋委員：二つやることは出来ないのか。

事務局：あちら側が答えられるのであれば。

高橋委員：出来るかどうか聞いてみてほしい。並行してやると言っていたので。

事務局：その部分を整理していけないと、あちらは再編小学校の質疑を産建教育常任委員会でやると言われても何を聞かれるのかという形になってしまう。前回の全員協議会を聞いて出てきた疑問点や回答をもらえなかった部分を、産建教育常

任委員会で取り下げて確認したいという形で依頼すれば進むと思う。

高橋委員：それを聞いてきてほしい。

副委員長：前回の全員協議会の話にあった中で、解体工事を同時に進めていくというのは小学校の話であるか。

高橋委員：山下小学校の解体のことであるか。

副委員長：そうだと思っているのだが、皆さんはどういう風に捉えているのか。

伊藤委員：山下小学校のところを解体して用地造成をしないといけない。その際に、仮設校舎を作って山下小学校を運営しなくてはならないが、そこまではまだ考えていない。坂元小学校、山下第一小学校、山下第二小学校をどうするのかは、我々の……

副委員長：用地を買収する前提で消防署まで使う話になるのであれば、そちらの解体も入ってくる。

伊藤委員：消防署は、消防関係で解体し更地にして町に戻すことになっている。

副委員長：実際そこまで行くのかどうか分からないが、あちらは検討されているのだろうが、確認してみたいと思った。

委員長：前回の疑問点という形で良いか。

高橋委員：今ある校地は3万平米あるのか。プラスアルファを考えての3万平米なのかと思った。今現在で3万平米あるのか、そのあたりが疑問に思った。

伊藤委員：中学校のグラウンドまで入れば、3万平米はクリアすると思う。

高橋委員：道路を挟んだ向かい側にテニスコートがあるが、あのあたりも町有地であるか。

伊藤委員：町有地である。

竹内委員：小学校の裏側、北側のあたりをきれいにし、場合によっては民有地を買収しなくてはならない。

事務局：前回の全員協議会を受けての疑問点が出ているので、そのあたりをという話をする。

委員長：執行部に前もって疑問点を出したい。今週全員協議会もあるので、出来れば書いて提出していただきたい。

事務局：そのほうがあちらも答えやすいとのこと。

副委員長：場所としては山下小学校、山元中学校があるところをメインにして今ある用地を使う形を考えているとのこと。

事務局：基本的な校地を今のあの場所にするというところまでしか決まっていない。そこを持って、そうしたときにここはどうなるのか、これはどうなのかという疑問を出していただきたい。

高橋委員：増やすかどうかということも聞いて良いのか。

事務局：増やすのかというような、そこで出た疑問というところを確認する。

次回開催 2月14日（金） 午前10時00分～（再編小学校について）

5 閉会宣告 【委員長】